

ドクターにとっての最善ではなく、 患者様にとっての最善を選ぶ

Doctor
interview

外科

山陽病院 外科部長 もうり 毛利 のりお 教生

専門分野 循環器内科、アクセス外科、心臓血管外科

資格 三学会構成心臓血管外科専門医認定機構 心臓血管外科専門医

日本外科学会 外科専門医、腹部ステントグラフト 指導医

胸部ステントグラフト 実施医、下肢静脈瘤血管内治療 指導医

透析バスキュラーアクセスインターベンション治療医学会 VAIVT認定専門医、評議員

日本透析アクセス医学会 VA血管内治療認定医



いつ頃から医師を目指したのでしょうか？

小学校の卒業文集にはすでに、「医者になりたい」と書いていました。

大学の授業では内科よりも外科の手術見学が楽しく、気付けば外科を選択していました。動いている臓器に興味があり、特に心臓血管外科に魅力を感じました。

当院ではどのような診療に取り組んでいますか？

メインは透析患者様のシャントの管理です。シャントは、血栓によって血管の内側が詰まってしまうたり、血管が狭くなったりしてしまうトラブルが起こりやすいため、そういった症状のある方の治療や手術を行っています。

シャントの異変をいち早く見つけるには、透析現場で患者様と接するスタッフの協力が欠かせません。透析スタッフとは日頃からコミュニケーションを取るようにはしていて、観察の重要性について啓蒙したり、勉強会を開いたりしています。

※シャント…透析で針を刺して血液を体外に取り出し、また体内に戻すための血管のこと

日頃の診療や手術の際に心がけていることはありますか？

医師にとっての最善ではなく、患者様にとっての最善を選びたいという思いがあり、治療方法は患者様にとって最も負担の少ないものを選んでいきます。手術については、「同じものは1つとしてない」と考えていますので、毎回全力投球しています！

学会にも積極的に参加されていますね

学会参加は趣味のようなものです。海外には、日本よりも先進的な取り組みをしているところが多くあるので、時には海外の学会に参加することもあります。情報収集したり発表を行って意見交換をしたりすることで、モチベーションも上がります。

各地の文化に触れるのも楽しみの1つです。最近は講演会にも力を入れていて、多くの先生と知り合い交流を持つことで刺激を得ています。

当院の印象はどうですか？

スタッフはみんな協力的で、互いにサポートできる環境です。先日、腎クリニックでスタッフがシャントトラブルに気づき、すぐに当院で手術をして、当日中には透析治療を行うことができたという事例がありました。このように連携して迅速な対応ができるのは当グループの強みだと思います。

今後の目標はありますか？

他県や首都圏まで行かなくても、患者様が今お住まいのこの地域で、適切な治療を受けられるようにしたいと考えています。そのためにも私自身、もっと腕を磨き、透析医療のスペシャリストとして山陽病院とともに成長していきたいと思っています。

～毛利外科部長にプライベートなことも伺いました～

前任地は沖縄だったかがいました

はい。大学の研修病院の1つとして沖縄があり、研修医時代も含めて11年を過ごしました。妻とも沖縄で出会いました。僕の第二の故郷です。

山陽病院に着任したきっかけを教えてください

沖縄で心臓血管外科医として勤務していたころ、シャント治療についての相談を受けることが多く、透析医療に本格的に関わりたいと思うようになりました。三次市に住む両親の近くにいたいという思いもあり、縁あって山陽病院に来ることになりました。

趣味は何ですか？

走ることが好きで、フルマラソンを完走したこともあります。休日は近所を走りますが、学会に行った時や旅先で走るのも楽しみの1つです。

